

平成 27 年度 研究成果報告書  
Research Achievement Report FY2015

Date: 2016 年 3 月 2 日

言語社会専攻長

日本語・日本文化専攻長 殿

To Dean of Studies in Language and Society

To Dean of Studies in Japanese Language and Culture

講座名・職名 Course Title・Job Title	アジアⅢ講座・講師
氏名 Name	西岡 美樹
専門分野 Academic Field	言語学・ヒンディー語学

主たる研究テーマ Principal Research Subject	ヒンディー語と日本語の言語対照研究
<p>平成 28 年度は、ヒンディー語と日本語の言語対照の研究の主軸として「ウェブコーパスを利用したヒンディー語・日本語の複合動詞の対照研究」（科研費 [課題番号：15K02517]）の研究プロジェクトの初年度を遂行した。まず、4 月には技術担当の研究協力者とともに、ヒンディー語のウェブコーパス構築の準備に着手した。具体的には、本ウェブコーパスの規模、収集法の詳細、POS タグの選定、手順の確認を行った。次に、ウェブデータの収集に際して必要な作業（シードの作成とヒンディー語以外のウェブデータの排除）を行い、7、8 月に途中経過を見ながら 2 度打ち合わせをし、ウェブデータの質の確認を自身で行った。また、次年度に開発するコーパス検索ツールのプロトタイプである簡易検索スクリプトの作成にあたって、11 月に打ち合わせを行った。ウェブコーパスと検索スクリプトが完成した 12 月には試験運転を行い、コーパスと検索スクリプトの動作確認をした。その検索結果をもとに、1 月に次年度の開発に向けての打ち合わせや検索に付随する問題について打ち合わせを行った。その後、本プロジェクトの言語研究対象であるヒンディー語の複合動詞について検索を行ったが、その際に品詞タグでタグ付けされたレマに新たな不備が見られたため、今後の一般公開に向けて支障が出ないように、事前の対処法について緊急にメールで打ち合わせをした。これについては次年度に対処する予定である。</p> <p>一方、ウェブコーパスの構築のかたわら、現代ヒンディー語の話し言葉コーパスを構築する準備として、8-9 月の出張の際にヒンディー語を母語とする研究協力者たちと現代ヒンディー語の話し言葉コーパスの収集法についてさまざまな議論を交わした。その結果、今後の話し言葉コーパスの構築にあたり大卒での協力体制を敷くことができた。</p> <p>本筋の言語研究については、前年度に用意したウェブ公開されている新聞記事を利用し、日本語の「テ・しまう」と否定辞の共起制限について対照させた ‘Restrictions on co-occurrence of ‘STEM + <i>jānā</i> and negation in Hindi: a contrastive analysis with ‘<i>te</i> + <i>shimau</i>’ in Japanese’ を SALA-31 (Lancaster University, UK) で発表した。</p> <p>さらに、一昨年度終了した「ヒンディー語と日本語の属格後置詞および格助詞・準体助詞の対照研究」（科研費 [課題番号：23652084]）の発展的研究の一環として、「ヒンディー語の名詞修飾構造の類型——日本語の格助詞・準体助詞「の」との対照的視点を交えて——。」と題しシンポジウム：Nominalization Festival（大阪大学平成 27 年度国際共同研究促進プログラム主催、待兼山ことばの会共催）にて発表した。南アジア諸語の研究者ではなく、日本語をはじめその他の言語の専門家と議論する機会に恵まれ、ヒンディー語の nominalization について今後研究を進めるための新たな方向性を見出すことができた。</p>	